

都道府県名

宮 城 県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	一迫町立一迫小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	15
児童数	38	34	36	33	36	38	2	217	

研究の概要

## 1. 研究主題

基礎・基本の確実な定着を図るための指導のあり方  
 - 基礎学力を土台とした、きめ細かな指導を通して -

## 2. 研究内容と方法

## (1) 実施学年・教科

\* 実施学年及び教科を選択した理由を記すこと。  
 ・ 1～6年生・算数と国語  
 児童の理解の状況に差が出やすい教科として、昨年度は算数を中心に組み組んできたが、基礎学力として、読み、書きが重要であることがわかり、国語に枠を広げた。

## (2) 年次ごとの計画

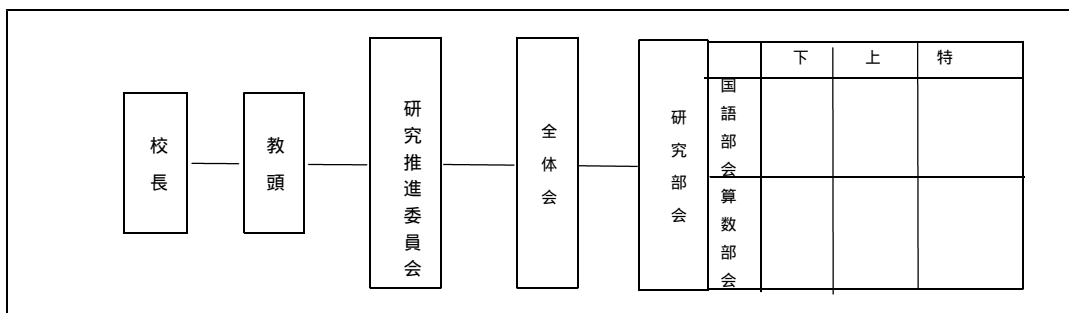
平成14年度	<p>テーマ          基礎学力の確実な定着を図るための指導のあり方          - 算数科におけるきめ細かな指導方法・指導体制の工夫を通して -</p> <p>仮説          算数科において、次のような手立てにより、児童一人一人に基礎学力が身に付くであろう。          ・学習習慣の確立（ノート指導、学習の準備の仕方など）          ・指導体制による個に応じた指導の工夫（TTや少人数指導）          ・学習過程の工夫（計算練習や習熟のための時間の設定）</p> <p>研究内容・方法          ・ノートの使い方、学習の準備の仕方などの学習習慣の共通理解と指導を行う。          ・算数科において、TTや少人数指導によるきめ細かな指導の工夫や指導体制を生かした学習過程の工夫について実践を通して明らかにする。          学習内容に合わせたTTや少人数指導の工夫          児童の希望を生かした少人数集団づくり          計算練習や習熟のための時間設定          コンピュータソフトの活用</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ          基礎・基本の確実な定着を図るための指導のあり方          - 基礎学力を土台とした、きめ細かな指導を通して -</p> <p>仮説          次のような手立てにより、児童一人一人に基礎・基本が身に付くであろう。          ・基礎学力の定着          ・指導体制による個に応じた指導の工夫（TTや少人数指導）          ・学習過程の工夫（計算練習や習熟の時間の設定）</p>
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲を高める評価の工夫（自己評価表の工夫，数と計算領域における個人カルテの活用）</li> </ul> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣を身に付けさせ，読む，書く，計算するなどの基礎学力の向上を図る。</li> <li>・学習内容に合わせて，ＴＴでの指導や少人数指導による学習パターンの工夫をする。</li> <li>・計算タイムやスキルタイムでの習熟を図る。</li> <li>・児童の意欲が高まる自己評価表の工夫と数と計算領域における個人カルテの活用を実践を通して明らかにする。</li> </ul>
--	---

平成16年度	<p>テーマ（仮） 自ら考え，自ら表現する力を育てる指導のあり方 ～基礎・基本を核とした，きめ細かな指導を通して～</p> <p>視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の充実。</li> <li>・指導方法の工夫（ＴＴや少人数指導などの指導形態や，計算練習や習熟の時間，話し合い活動などの学び合いの時間の設定）</li> <li>・意欲を高める評価の工夫（自己評価表の工夫，数と計算領域における個人カルテの活用）</li> </ul> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣を身に付けさせ，読む，書く，計算するなどの基礎学力の充実により基礎・基本の定着を図る。</li> <li>・学習内容に合わせて，ＴＴでの指導や少人数指導による学習パターンや学び合いの時間の工夫をする。</li> <li>・個人差に応じた支援の工夫や補充発展問題の開発をする。</li> <li>・計算タイムやスキルタイムでの習熟を図る。</li> <li>・形骸化しない自己評価表の工夫と数と計算領域における個人カルテの活用を実践を通して明らかにする。</li> </ul>
--------	--

### (3) 研究推進体制



### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

<p>昨年度1学期と3学期に行ったCRTテストの結果，各学年とも「関心・意欲態度」「表現・処理」，「知識・理解」で，向上が見られた。</p> <p>算数において基礎・基本を身につけるには，基礎学力（読み，書き，計算）を伸ばし，指導形態や学習過程，評価の工夫をすることが有効であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・忘れ物が減り，学習の準備や取り掛かりが早くなり，ノートへの記入が丁寧になるなど，学習の効率が上がってきている。</li> <li>・指導過程を工夫することで，児童一人一人に目が行き届くようになり，学習状況に応じた働きかけができるようになった。</li> <li>・児童の学習ペースに合わせてコースを選択させることで，より集中して取り組めるようになった。学習したことの定着も図られ，達成感を味わわせることができた。</li> <li>・単元ごとに児童の希望によるコース分けを行ったことや，単元途中でもコース変更を認めることで，児童の意欲が高まってきた。</li> </ul>
--

- ・授業の始めの基礎学力の学習では，集中力や学習への自信，意欲を持たせることができた。
- ・習熟の段階で個別の支援を行うことができた。
- ・教材の工夫を行うことで学習への意欲の向上や個に応じた効率的な学習ができた。
- ・計算力定着カードにより，児童のつまづきを把握し指導に役立てることができた。
- ・1時間ごとの評価規準を設定することにより，目標に達成するための指導方法や手立てが明確になってきた。

## 2. 今後の課題

- 数学的な考え方を伸ばすとともに，算数がすきな子を増やすための授業の質の改善を行う。
- ・文章の内容を的確に読み取る力や自分の考えを堂々と発表する力を伸ばしていく。
  - ・個人差に応じた支援のさらなる工夫，補充や発展問題の開発をする。
  - ・自己評価表が形骸化しない工夫をしていく。
  - ・学習習慣は家庭の生活と関連があり，連携を深めていく。

### 学力等把握のための学校としての取組

- 定期的な学力調査の実施
- ・算数（毎年1月CRT検査を実施）
  - ・国語（平成15年より6月NRT検査を実施）

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・公開研究会（平成15年）10月31日実施 約300名参加
- 今後の予定
- ・公開研究会（平成16年）11月12日（金）予定
  - ・HP作成と更新
  - ・学校便り，研究便り，保護者向けパンフレットの発行
  - ・町内小中学校との情報交換

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校      ■ 14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                      ■ 7～12学級  
 13～18学級                       19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】              ■ 少人数指導                      ■ T・Tによる指導  
 一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】              ■ 国語                       社会                      ■ 算数                       理科  
 生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
 体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      ■ 有                       無